

### みことばに聞く人

(マタイ7・21～27)

#### 一、「主よ、主よ」と言う者

21節をご覧ください。へわたしに向かつて『主よ、主よ』と言う者がみな天の御国に入るのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行う者が入るのです。』とあります。このことばは、主イエス・キリストが、ご自身の語ることばを求めて集まって来た群衆と弟子たちに語られた、「山上の説教」と言われる一連の教えの一部です。マタイの福音書には、主イエスがこの一連の教えを続けて語られたように書かれています。それはマタイによる編集でありまして、主イエスはこの大切な教えを小分けにして語ったものと思われま。そのように受け止めた方が、マルコの福音書、ルカの福音書との整合性を考える際に納得がいきます。

では、主イエスはどのような意味で、「わたしに向かつて『主よ、主よ』と言う者がみな天の御国に入るのではない」とおっしゃったのでしょうか。実は、偽預言者のことを指して語られました。15節で語られている偽預言者です。偽預言者たちに用心しなさい。彼らは羊の衣を着てあなたがたのところに来るが、内側は貪欲な狼です。』と、主は語られました。

#### 二、主が語られた偽預言者

偽預言者と言えば、旧約にも出てまいります。例えば、預言者エレミヤは偽りの預言者たちに、ずいぶん苦しめられました。もちろん「偽預言者」なることばは、後の時代に決められたことであって、エレミヤの時代の偽預言者たちは、自分たちこそ主の預言者だと思っていました。主の霊によって語らなかつた預言者たちは、王が抱える職業預言者たちであり、王が喜ぶことを語りました。一方、主の預言者は、主の霊に導かれて厳しいことを語りました。当然、時の為政者である王は喜ばないわけです。そのためエレミヤは、牢に入れられてしまいました。エレミヤが主の霊によって語ったのは、後の時代が証明しました。すべて、エレミヤが語ったとおりになったからです。

そういう流れがありますから、キリスト教会も当初は、預言者の働きは使徒職に続く働きとして重要でした。へ1コリント12・28 神は教会の中に、第一に使徒たち、第二に預言者たち、第三に教師たち、そして力あるわざ、そして癒やしの賜物、援助、管理、種々の異言を備えてくださいました。』というパウロのことばも、それを物語っています。そうしますと、当然のこと、偽預言者たちも出てきたわけです。それを見越して主イエスは、偽預言者たちに用心しな

さい。彼らは羊の衣を着てあなたがたのところに来るが、内側は貪欲な狼です。』と語られたわけです。そして、マタイが福音書を発行した時代においては、すでに偽預言者の問題が教会を悩ませていたと、読むことができます。

では、まことの預言者、まことの信仰者は、だれなのでしょう。再び、21節を見てまいります。特に、後半のへ天におられるわたしの父のみこころを行う者が入るのです。』にご注目ください。

三、みこころを行う者  
主イエスは、「天におられるわたしの父のみこころを行う者が天の御国に入るので。』とおっしゃいました。このことばは、24節と重なります。ですから、わたしのこれらのことばを聞いて、それを行う者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人にたとえることができます。』と。両者は同じことを語っています。へわたしのこれらのことば』とは、主イエス・キリストによって語られたことばです。狭い意味で受け取るなら、山上の説教で語られた、5章、6章、7章に記されていることばです。広い意味で受け取るなら、主イエス・キリストが語られたことばのすべて、また行われたことばのすべてです。ですが、へわたしのこれらのことば』を一言で言い表すこともできません。それは、神から離れたしまった人間、すなわち罪の下にあ

る人間を救うために、神が御子イエス・キリストを遣わし、この方に、罪人が受けなければならぬ義のさばきを下し、それを信じる者は救われるというメッセージです。これを、「みことば」と言います。あるいは「キリストの福音」と言います。「十字架のことば」とも言います。

みことばを聞いて、それを受け入れた人は、必ず神のみこころを行うようになります。しばしば日曜学校では、この聖句から「みことばを聞くだけではだめです。行っ人になりましょう」と先生たちが語ります。まちがいではないのですが、本来の意味はそういうものではないと思います。みことばを聞いて受け入れた人とは、みことばを理解し、自分のものとした人だからです。その人は、言われるまでもなく、神のみこころに生きるようになります。

反対に、みこころを行わない人は、実は、みことばを理解していないのです。「主よ、主よ」と祈り、熱心に奉仕をし、教会員を指導するものの、実のところは、神のみこころを理解していないのです。神と出会っていないのです。

そういうわけで、みことばに聞くなら、キリストの福音に聞くなら、25節のようになります。へ雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家を襲っても、家は倒れませんでした。岩の上に土台が据えられていたからです。』と。